

これが私の指導法 ～知的財産の継承～



二ツ井小学校
教諭
中村 和人

秋田の学びの一つである「自学」での取り組みを紹介します。
私はマンガやイラストを描くのが好きなので、確認印として、子どもが好きなイラストを描いて

て励ましています。また、一日一コマずつの四コママンガにすると、次の展開を楽しみに提出してくれる子どももいます。初めはなかなか提出できなかったり、内容が乏しかったりした子どもも、内容を工夫しながら継続して提出できるようになってきています。

今の学級では、一日交替で学級自学ノートに自学を書かせるようにし、友達との取り組みをお互いに見ることができるようになっています。これにより友達を参考にし、工夫して取り組む児童も増えてきました。

また、本校では自学コンクールを行って、がんばっている子どもや工夫して取り組んでいる子どもを表彰しています。これによって

意欲的に取り組む子どもが増えてきています。
これからも子どもたちが、楽しく、意欲的に自学に取り組めるような方法を考えて実践していきたいと思っています。



我が校の実践

向能代小学校

教頭 日沼 良樹

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた

向小の第一歩

本校では、主体的・対話的で深い学びの実現には、学び合う場面で児童が共に高め合うための「土

台となる力」の育成が重要であると捉え、その力の中から「聴く力」に焦点を当てて授業改善に取り組んでいる。実践に当たって、研究主任から次の2点が提案された。
一つ目は、「聴く力」の指導の目安となる「話す・聞く・話し合う」系統表を低・中・高学年の発達段階ごとに設定し、「聴く力」を6年間を通じて次第に高められるようにするということである。

二つ目は、その力がどの程度育っているかを授業研究会ごとに検証し、次の授業研究会までに取り組

む「共通実践事項」を全職員の総意で設定することである。本校ではこれを「授業研究会をつなぐ提案」とし、協議の最後に意見を出し合い、シンプルな「共通実践事項」を設定して取り組んでいる。

現在は、「主述を明確にする」が合い言葉になっている。その効果は、若手・中堅・ベテラン教員や学年・学団部の会話の促進となって現れている。

いつも活発な意見が飛び交う職員室がとても居心地がいい。

編集後記

「この実践すばらしい！」各学校、各先生に、様々な取組があります。是非、まねをしたいものです。
この秋の学校訪問でも「なるほど」「お見事！」心のVTTRにたくさんさんのシールを収めています。
(〇)

相互に啓発する授業を



「るるるタイム」

「わかる・教える・つながる」の3つの「る」が合い言葉の「るるるタイム」。「生徒が生徒に教える」「発表がつながる」、そういう場面づくりに、二中みんなが取り組んでいます。

